熊本高等専門学校	共通教育科（八代）	開講年度	平成25年度 (2013年度)

学科到達目標

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数 1年 前 1Q	1年 前 2Q	1年 前 3Q	1年 前 4Q	1年 後 1Q	1年 後 2Q	1年 後 3Q	1年 後 4Q	2年 前 1Q	2年 前 2Q	2年 前 3Q	2年 前 4Q	2年 後 1Q	2年 後 2Q	2年 後 3Q	2年 後 4Q	3年 前 1Q	3年 前 2Q	3年 前 3Q	3年 前 4Q	3年 後 1Q	3年 後 2Q	3年 後 3Q	3年 後 4Q	4年 前 1Q	4年 前 2Q	4年 前 3Q	4年 前 4Q	4年 後 1Q	4年 後 2Q	4年 後 3Q	4年 後 4Q	5年 前 1Q	5年 前 2Q	5年 前 3Q	5年 前 4Q	5年 後 1Q	5年 後 2Q	5年 後 3Q	5年 後 4Q	担当教員	履修上の区分
一般	選択	一般特別セミナー	0009	履修単位	1									集中講義																														米沢 徹也	
一般	必修	国語III	0018	履修単位	2									2		2																												池田 翼	
一般	必修	日本史	0026	履修単位	2									2		2																												時松 雅史	
一般	必修	数学III	0034	履修単位	4									4		4																												久保田 智,小鉢 暢夫	
一般	必修	物理II	0042	履修単位	2									2		2																												岩尾 航希,東田 洋次	
一般	必修	総合理科II	0050	履修単位	1											2																												東田 洋次	
一般	必修	保健体育III	0057	履修単位	2									2		2																												四宮 一郎	
一般	必修	英語III	0064	履修単位	4									4		4																												関 文雄	
一般	必修	プログラミング基礎	0070	履修単位	2									2		2																												小島 俊輔,村田 美友紀,柿ケ原 拓哉,米沢 徹也,岩﨑 洋平,木原 久美子	
一般	必修	国語IV	0001	学修単位	1													1																										池田 翼	
一般	必修	科学技術と現代社会	0002	学修単位	1															1																								小林 幸人	
一般	必修	多変数の微分積分学	0003	学修単位	1													1																										東田 洋次	
一般	必修	行列式と行列の応用	0004	学修単位	1															1																								東田 洋次	
一般	必修	スポーツ科学	0005	履修単位	1													2																										四宮 一郎	
一般	必修	英語IVA	0006	学修単位	1													1																										石貫 文子	
一般	必修	英語IVB	0007	学修単位	1															1																								藤山 和久	
一般	選択	一般特別セミナー	0008	履修単位	1													集中講義																										米沢 徹也,小島 俊輔	
一般	選択	一般特別セミナー	0012	履修単位	1																																集中講義							四宮 一郎,岩下 いずみ,小島 俊輔	
一般	選択	日本現代文学	0071	学修単位	2																																2							池田 翼	
一般	選択	古典文学	0072	学修単位	2																																2							道園 達也	
一般	選択	経済学	0073	学修単位	2																																2							時松 雅史	
一般	選択	哲学	0074	学修単位	2																																2							小林 幸人	
一般	選択	健康科学	0075	履修単位	2																																2				2			四宮 一郎,川尾 勇達	
一般	選択	総合英語A	0076	学修単位	1																																1							岩下 いずみ	
一般	選択	歴史と文化	0077	学修単位	1																																1							遠山 隆淑	
一般	選択	総合英語B	0078	学修単位	1																																						1	福井 由美子	
一般	選択	社会と法	0079	学修単位	1																																						1	小林 幸人	

熊本高等専門学校	開講年度	平成27年度 (2015年度)	授業科目	総合理科II

科目基礎情報

科目番号	0050	科目区分	一般 / 必修
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	3
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	東田 洋次		

到達目標

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1			
評価項目2			
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	
授業の進め方・方法	
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	国語IV

科目基礎情報

科目番号	0001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材	配布プリント		
担当教員	池田 翼		

到達目標

①日本語及び日本文学に関する基礎的な知識を習得する。
②「読む技術・書く技術」に関わる基本的な知識・技術・能力を習得する。
③「話す技術・聞く技術」に関わる基本的な知識・技術・能力を習得する。
④「情報を正しく伝える」ことについて理解し、その能力を習得する。
⑤④までで習得した能力を、就職活動という直近の実践の場を想定しながら、
社会生活の中でいかに応用できるかを考え、実用に備える。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
①日本語及び日本文学に関する基礎的な知識を習得する。	日本語及び日本文学に関する基礎的な知識を問う試験問題にて、８０%以上を正答することができる。	日本語及び日本文学に関する基礎的な知識を問う試験問題にて、６０%以上を正答することができる。	日本語及び日本文学に関する基礎的な知識を問う試験問題にて、６０%未満の正答しかできない。
②「読む技術・書く技術」に関わる基本的な知識・技術・能力を習得する。	「読む技術・書く技術」に関わる基本的な知識・技術・能力を習得しており、自ら表現できる。	「読む技術・書く技術」に関わる基本的な知識・技術・能力を習得している。	「読む技術・書く技術」に関わる基本的な知識・技術・能力を習得していない。
③「話す技術・聞く技術」に関わる基本的な知識・技術・能力を習得する。	「話す技術・聞く技術」に関わる基本的な知識・技術・能力を習得しており、自ら表現できる。	「話す技術・聞く技術」に関わる基本的な知識・技術・能力を習得している。	「話す技術・聞く技術」に関わる基本的な知識・技術・能力を習得していない。

学科の到達目標項目との関係

本科到達目標 1-1 本科到達目標 4-1

教育方法等

概要	日本語及び日本文学に関する基礎的な知識を固める。 また、日本語運用能力の基礎「読む・書く・話す・聞く」の各技術について、就職活動に必要な文書作成演習等を通じて向上させる。
授業の進め方・方法	日本語及び日本文学に関する知識を問う演習とともに、国語表現に関する基本的かつ実践的な知識・技術・能力を身に着けるトレーニングを行う。 毎時の演習について事前に準備をし、演習後には要点を整理すること。 また、演習を通して学習した内容を授業時間以外の日常生活に積極的に応用し、能力の定着をはかること。
注意点	授業への質問や要望は、メール・来室問わず随時受け付けます。 積極的に授業に参加することを通して、国語科に関する基礎知識と、社会人に求められるコミュニケーション能力の基礎を身に着けてください。また、楽しむことが良質なコミュニケーションを築く第一歩です。楽しんで演習に取り組んでください。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	日本語運用能力テスト	日本語力について、現在の実力を把握する。
		2週	読む技術・書く技術　手紙の書き方（１）	手紙の書き方について、基礎的な知識を身に着ける。
		3週	読む技術・書く技術　手紙の書き方（２）	自ら工夫し、知識に基づいて手紙文を書くことができる。
		4週	読む技術・書く技術　メールの書き方	メール文の書き方について、基礎的な知識を身に着け、自ら工夫し書くことができる。
		5週	読む技術・書く技術　履歴書・エントリーシートの書き方（１）	履歴書・エントリーシートの書き方について、基礎的な方法を知る。
		6週	読む技術・書く技術　履歴書・エントリーシートの書き方（２）	履歴書・エントリーシートを自ら工夫し書くことができる。また、受講者間で相互評価ができる。
		7週	国語一般常識問題演習（１）	これまで身に着けた知識を活用し、国語一般常識に関する問題を解くことができる。
		8週	〔中間試験〕	文書の作成に関する知識を有し、実践的に書くことができる。また、国語一般常識に関する知識を有している。
	2ndQ	9週	話す技術・聞く技術　グループ・ディスカッション（１）	グループ・ディスカッションにおける基礎的な技法についての知識を身に着ける。
		10週	話す技術・聞く技術　グループ・ディスカッション（２）	グループ・ディスカッションを効果的に実践することができる。
		11週	国語一般常識問題演習（２）	これまで身に着けた知識を活用し、国語一般常識に関する問題を解くことができる。
		12週	情報を正しく伝える	情報を正しく伝えるための技法を身に着ける。
		13週	話す技術・聞く技術　１分間スピーチ（１）	情報を正しく伝えるための技法を活用し、自ら工夫し、口頭で効果的なスピーチを行うことができる。また、スピーチについて相互評価ができる。
		14週	話す技術・聞く技術　１分間スピーチ（２）	情報を正しく伝えるための技法を活用し、自ら工夫し、口頭で効果的なスピーチを行うことができる。また、スピーチについて相互評価ができる。
		15週	国語一般常識問題演習（３）	これまで身に着けた知識を活用し、国語一般常識に関する問題を解くことができる。

		16週	〔前期末試験〕	グループディスカッションの技法や、情報を正しく伝えるための技法について説明できる。また、国語一般常識に関する知識を有している。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	3	前1,前7,前8,前11,前15,前16
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前12,前13,前14,前16
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	前6,前8,前9,前10,前13,前14,前16
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	前6,前8,前9,前10,前12,前13,前14,前16
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	前3,前4,前6,前8,前13,前14,前16

評価割合

	試験	課題・発表	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	科学技術と現代社会

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	1
教科書/教材	特に指定しない。自作のテキスト及び資料を配布する。/参考文献については適宜紹介する。		
担当教員	小林 幸人		

到達目標

１．科学技術と社会，環境との関係について理解する。
２．技術者の専門職としての役割と責任について理解する。
３．現代社会の様々な問題・課題について理解する。
４．主体的に問題を考察し，自分の考えを述べることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
１．科学技術と社会，環境との関係について理解する。	短答式問題で理解していることを示す（正答率80%以上）。 論述式問題で理解した内容をわかりやすく説明できる。	短答式問題で理解していることを示す（正答率60%以上）。 論述式問題で理解した内容を説明できる。	短答式問題で理解していることを示すことができない。 論述式問題で理解した内容を説明できない。
２．技術者の専門職としての役割と責任について理解する。	短答式問題で理解していることを示す（正答率80%以上）。 論述式問題で理解した内容をわかりやすく説明できる。	短答式問題で理解していることを示す（正答率60%以上）。 論述式問題で理解した内容を説明できる。	短答式問題で理解していることを示すことができない。 論述式問題で理解した内容を説明できない。
３．現代社会の様々な問題・課題について理解する。	短答式問題で理解していることを示す（正答率80%以上）。 論述式問題で理解した内容をわかりやすく説明できる。	短答式問題で理解していることを示す（正答率60%以上）。 論述式問題で理解した内容を説明できる。	短答式問題で理解していることを示すことができない。 論述式問題で理解した内容を説明できない。
４．主体的に問題を考察し，自分の考えを述べることができる。	自分の問題意識に基づき考察した内容および主張を，論理的かつ説得的に論述することができる。	自分の視点から考察した内容および主張を，論述することができる。	自分の視点から問題をとらえることができない。 考察した内容を文章で表現することができない。

学科の到達目標項目との関係

本科到達目標 4-3 本科到達目標 5-1

教育方法等

概要	科学技術によって支えられている現代社会において，技術者の社会的責任と役割は大きくなっている。本科目では，科学技術の発達によってもたらされた様々な成果と影響を理解するとともに，現代社会が抱える問題を認知し，科学技術の果たす役割・貢献について考察することを通じて，技術者としての先無について自覚することを目標とする。
授業の進め方・方法	主として講義によるが，具体的な問題について，受講者が自らの問題として考えるために，グループディスカッション，その他様々な活動を予定している。
注意点	授業を通じて基本的な知識を得ることは当然であるが，新聞などの各種メディアを通じて，主体的に情報を得て，現代社会の様々な問題や私たちの課題について理解することに務める。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス：本科目の内容について	科学技術のもたらす効果や影響，技術者の役割や責務を理解する背景や意義を理解し，説明できる
		2週	科学技術と社会：科学技術の成果（１）	グループワーク等を通して，科学技術が社会や人間に対して果たしてきた成果について考える
		3週	科学技術と社会：科学技術の成果（２）	科学技術が社会や人間に対して果たしてきた成果について考察した内容を整理し，発表する
		4週	科学技術と環境，社会（１）	科学技術の発達に伴い生じた問題について理解し，説明できる。
		5週	科学技術と環境，社会（２）：環境倫理，生命倫理，情報倫理	科学技術の発達に伴い成立・発展してきた応用倫理学の特徴について理解する
		6週	リスク社会（１）：科学技術の発達と複雑性の増大	科学技術の発達に伴い増大するリスクについて，その概念及び特徴を理解し，説明できる
		7週	リスク社会（２）：リスク社会における社会の変容	増大するリスクに対して社会がどのように対応しているのか，法的変容，技術的対応について理解し，説明できる
		8週	〔中間試験〕	前半の学習内容について，自分自身の理解度を確認する。
	4thQ	9週	技術者とは：技術者の定義	技術者［Engineer］とは何か，考察し，自分の考えを述べる
		10週	科学，技術と社会との関係：価値中立性テーゼと相互作用モデル	科学，技術という営為と社会とのかかわりについて，いくつかのモデルを理解し，説明できる
		11週	専門職と社会との関係：社会契約論モデルと社会協働モデル（１）	専門職の役割・責務についてふたつのモデルを理解し，説明できる。
		12週	専門職と社会との関係：社会契約論モデルと社会協働モデル（２）	専門職としての技術者の役割について，ふたつのモデルに基づき考え，述べることができる。
		13週	現代社会における技術者の倫理（１）	現代社会において技術者の倫理的責任が問われる背景，意味について理解し，説明できる。
		14週	現代社会における技術者の倫理（２）	倫理的責任を考える際に，外的義務付けに留まらない役割や責任を考え，説明することができる。
		15週	現代社会における科学，技術及び技術者の役割，責務	講義全体を通して，技術者の役割，責務等について考察し，主張を提示する（小論文演習）

		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	3	後1,後2,後3,後10,後11
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	3	後1,後2,後3,後10,後11
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	1	後5
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	3	後4,後5
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みついて理解できる。	3	後3,後5
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	後6,後7,後9
				説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	後6,後7
				技術者を目指す者として、社会での行動規範としての技術者倫理を理解し、問題への適切な対応力（どうのように問題を捉え、考え、行動するか）を身に付けて、課題解決のプロセスを実践できる。	2	後15
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3	後5
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	後5
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	後4
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	後5
				社会性、社会的責任、コンプライアンスが強く求められている時代の変化の中で、技術者として信用失墜の禁止と公益の確保が考慮することができる。	3	後12,後14
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	後13,後14,後15
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	後13,後14,後15
		技術史	技術史	歴史の大きな流れの中で、科学技術が社会に与えた影響を理解し、自らの果たしていく役割や責任を理解できる。	3	後12,後14
		グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	3	後13,後14

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

熊本高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	多変数の微分積分学

科目基礎情報

科目番号	0003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材	高専テキストシリーズ　微分積分２　森北出版		
担当教員	東田 洋次		

到達目標

１．基本的な２変数関数の２次までの偏導関数を計算することができる。さらに、極値を求めることができる。また、陰関数の定理を用いて基本的な問題を解くことができる。
２．簡単な条件付きの２変数関数の極値を求めることができる。また、簡単な重積分の計算ができる。更に、基本的な立体図形の体積を、重積分を用いて求めることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 基本的な２変数関数の２次までの偏導関数を計算することができる。さらに、極値を求めることができる。また、陰関数の定理を用いて基本的な問題を解くことができる。	到達目標の項目に関する問題に対して８割以上を正答することができる。	到達目標の項目に関する問題に対して６割以上を正答することができる。	到達目標の項目に関する問題に対して６割未満の正答しかない。
評価項目2 簡単な条件付きの２変数関数の極値を求めることができる。また、簡単な重積分の計算ができる。更に、基本的な立体図形の体積を、重積分を用いて求めることができる。	到達目標の項目に関する問題に対して８割以上を正答することができる。	到達目標の項目に関する問題に対して６割以上を正答することができる。	到達目標の項目に関する問題に対して６割未満の正答しかない。

学科の到達目標項目との関係

本科到達目標 3-1

教育方法等

概要	本科目は、数学Ⅰ、数学Ⅱ(微積)および数学Ⅲで学ぶ１変数関数の微積分を基礎とした科目である。内容は２変数関数の微分法(偏導関数、極値問題、陰関数の定理)と積分法(累次積分、立体図形の体積、極座標変換)について取り扱う。また、より高度な微分積分、解析学などを学ぶための入門であり、他の分野に応用できる素地となるところが多い。
授業の進め方・方法	（授業方針）本講義は教科書を中心に進め、次の目標項目に関する解説と演習を行う。また、適宜授業内容を確認するための試験を実施する。２変数の微分法と積分法における基本的な知識の修得と簡単な計算ができるようになることを目標とする。 （評価方法）２回の定期試験の成績によって目標項目の達成度を評価する。評価の低い学生に対しては、再試験を行うこともある。
注意点	（学習方法）講義で取扱った授業内容は、教科書や問題集等を解くことにより復習を行う。また、次回の講義に該当する箇所について、教科書を一読し予習してくる。 （連絡事項）基本問題を何回も正確に解くことが大切です。また、講義や演習に関する質問は、数学科全員で対応しています。放課後を利用し気軽に声をかけてください。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	２変数関数	□2変数関数の定義域及びグラフの形状に関する問題
		2週	偏導関数	□2変数関数の偏導関数を求める問題 □2変数関数の第2次偏導関数を求める問題
		3週	合成関数の導関数・偏導関数	□合成関数の偏微分法を利用する問題
		4週	接平面	□2変数関数が表す曲面上の点における接平面を求める問題
		5週	全微分と近似 ２変数関数の極値	□全微分と近似に関する問題
		6週	極値の判定法	□2変数関数の極値を求める問題
		7週	陰関数の微分方法	□f(x,y)=0 から定まる陰関数の導関数を求める問題
		8週	（前期中間試験）	評価項目１
	2ndQ	9週	条件付き極値問題	□ある条件のもとでの２変数関数の極値を求める問題
		10週	２重積分	□2重積分の定義に関する問題 □2重積分を累次積分によりその値を計算する問題
		11週	２重積分	□積分順序の変更を行う問題
		12週	変数変換	□一般の変数変換を用いて2重積分の値を求める問題
		13週	変数変換	□極座標変換を用いて2重積分の値を求める問題
		14週	２重積分の応用	□2重積分を用いて立体の体積を求める問題
		15週	２重積分の応用	□2重積分を用いて平面図形の重心を求める問題
		16週	（前期末試験）	評価項目２

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	2変数関数の定義域を理解し、不等式やグラフで表すことができる。	3	前1
				いろいろな関数の偏導関数を求めることができる。	3	前2

				合成関数の偏微分法を利用して、偏導関数を求めることができる。	3	前3
				簡単な関数について、2次までの偏導関数を求めることができる。	3	前2
				偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。	3	前5
				2重積分の定義を理解し、簡単な2重積分を累次積分に直して求めることができる。	3	前10
				2重積分を累次積分になおして計算することができる。	3	前10
				極座標に変換することによって2重積分を求めることができる。	3	前13
				2重積分を用いて、簡単な立体の体積を求めることができる。	3	前14

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	行列式と行列の応用

科目基礎情報

科目番号	0004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	1
教科書/教材	高専テキストシリーズ　線形代数　森北出版		
担当教員	東田 洋次		

到達目標

１．簡単な行列について、行列式の計算ができる。また、逆行列を求めたり、連立１次方程式を解くことができる（余因子、クラメルの公式、掃出し法）。
２．ベクトルの1次従属・1次独立を学び、行列の階数を求めることができ、正則でない係数行列をもつ連立１次方程式を解くことができる。また、簡単な行列について、固有値と固有ベクトルを求め、対角行列に変換することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 簡単な行列について、行列式の計算ができる。また、逆行列を求めたり、連立１次方程式を解くことができる（余因子、クラメルの公式、掃出し法）。	到達目標の項目に関する問題に対して８割以上を正答することができる。	到達目標の項目に関する問題に対して６割以上を正答することができる。	到達目標の項目に関する問題に対して６割未満の正答しかない。
評価項目2 ベクトルの1次従属・1次独立を学び、行列の階数を求めることができ、正則でない係数行列をもつ連立１次方程式を解くことができる。また、簡単な行列について、固有値と固有ベクトルを求め、対角行列に変換することができる。	到達目標の項目に関する問題に対して８割以上を正答することができる。	到達目標の項目に関する問題に対して６割以上を正答することができる。	到達目標の項目に関する問題に対して６割未満の正答しかない。

学科の到達目標項目との関係

本科到達目標 3-1

教育方法等

概要	本科目は、数学Ⅱ(ベクトル)と数学Ⅲで学ぶ行列と１次変換から継続するものであり、行列式の計算、逆行列の求め方、連立１次方程式の解法、および行列の対角化について取り扱うものである。また、行列の理論は微分積分と並んで理工系の数学の基礎として重要であり、コンピュータの利用にともない数値計算、線形計画などに応用されている。
授業の進め方・方法	（授業方針）本講義は教科書を中心に進め、次の目標項目に関する解説と演習を行う。また、適宜授業内容を確認するための試験を実施する。行列と行列式における基本的な知識の修得と簡単な計算ができるようになることを目標とする。 （評価方法）２回の定期試験の成績によって目標項目の達成度を評価する。評価の低い学生に対しては、再試験を行うこともある。
注意点	（学習方法）講義で取扱った授業内容は、教科書や問題集等を解くことにより復習を行う。また、次回の講義に該当する箇所について、教科書を一読し予習してくる。 （連絡事項）基本問題を何回も正確に解くことが大切です。また、講義や演習に関する質問は、数学科全員で対応しています。放課後を利用し気軽に声をかけてください。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	３次正方行列の行列式	□2次及び3次の行列式の値を求める問題 □クラメルの公式による連立方程式を解く問題
		2週	ｎ次正方行列の行列式	□順列の符号を求める問題
		3週	行列式の性質	□行列式の性質を用いて4次正方行列式の値を求める問題
		4週	行列の積の行列式／行列式の展開	□行列の積の行列式に関する問題
		5週	行列式の展開／行列式の応用	□余因子による逆行列を求める問題
		6週	行列式の応用	□行列式を用いて平行四辺形の面積や平行六面体の体積を求める問題
		7週	基本変形による連立１次方程式の解法	□基本変形による連立方程式を解く問題
		8週	（後期中間試験）	評価項目１
	4thQ	9週	基本変形による逆行列の計算	□基本変形による逆行列を求める問題
		10週	行列の階数	□行列の階数を求める問題
		11週	行列の階数と連立１次方程式	□係数行列がせいそくでない連立方程式の解を求める問題
		12週	ベクトルの線形独立と線形従属	□線形独立と線形従属に関する問題
		13週	固有値と固有ベクトル	□固有値と固有ベクトルを求める問題
		14週	行列の対角化	□対角化に関する問題
		15週	対称行列の対角化	□対称行列の直交行列による対角化に関する問題
		16週	後期末試験	評価項目２

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。	3	後1

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	スポーツ科学

科目基礎情報

科目番号	0005	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	必要に応じ資料を配布または掲示するが、ニュースや新聞、インターネット及びテレビ放映を活用し、自学自習すること。		
担当教員	四宮 一郎		

到達目標

講義：１．基本的な解剖、運動生理が理解できる。２．栄養素の基礎知識とエネルギー代謝について理解できる。
３．自分の体力を把握することができる。４．科学的思考をスポーツに応用できる。
実技：１．技術の分析及び指摘ができる。２．大会の立案・運営ができる。３．競技規則を理解し、審判ができる。
４．健康・安全に対する関心と態度がとれる。　５．学生の模範となる社会的態度（規則を守る・責任感・協調性・安全性）がとれる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
講義（各分野共通）	各分野で学んだスポーツ・運動を行うために必要な知識とスポーツ界を支える科学（人体、運動、機器、道具、物質等）を物理学や生理学、化学等を応用して総合的な考察を説明（記述）することができる。	各分野で学んだスポーツ・運動を行うために必要な知識とスポーツ界を支える科学（人体、運動、機器、道具、物質等）を物理学や生理学、化学等を応用して、試験で答えることができる。	各分野で学んだスポーツ・運動を行うために必要な知識を身につけたり、スポーツ界を支える科学（人体、運動、機器、道具、物質等）を物理学や生理学を応用して、試験で答えたりすることができない。
実技（各分野共通）	基本的な技術を身につけ、ルールを覚え他者と協力し、積極的に練習や試合を運営することができる。 経験者は、チームやクラスメイトに技能向上に関する適切な指導を行い、被指導者の技能を向上させることができる。	基本的な技術を身につけ、ルールを覚え他者と協力し、練習や試合に参加できる。 経験者はチームやクラスメイトに技能向上に関する指導をすることができる。	基本的な技術やルールを身につけたり、ルールを覚えたりすることが殆どできず、練習や試合に対して消極的な態度で参加している。 経験者でありながら、チームメイトやクラスメイトに技能向上に関する指導や競技、ゲーム運営及び補助を行わない。

学科の到達目標項目との関係

本科到達目標 4-4

教育方法等

概要	スポーツ科学は、スポーツを科学するという観点から、運動・スポーツに関するより高度な知識を学習する。また、実技においても１～３年生までの基礎をもとにして、技能の習得を目指す。
授業の進め方・方法	スポーツ科学では、講義と実技をそれぞれ３つのグループに分け、講義を「スポーツ科学分野」、「トレーニング分野」、「栄養学分野」の３グループに、実技を「ゴルフコース」、「ソフトボールコース」、「バドミントンコース」の３グループに分けて実施する。 実技では、スポーツを科学するという観点から、ビデオ教材等にて正しいフォームを体得するとともに、常に安全に配慮し、ルールとエチケット等についても学習する。
注意点	安全な授業展開のために、指定した品位ある身なりと態度・マナーで受講すること。スポーツ科学は物理学、数学、化学、力学、生理学、生化学、電気・電子学、情報学、工学等々、多大な分野の総称であり、それら科学の一つの結晶でもある。スポーツ科学を通して科学技術の視点を広く持ち、今後のエンジニアとしての人生に活かしてもらいたい。授業内容やスポーツ関係の質問は、昼休みと放課後に教員室及び第一体育館教員控室にて受ける。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション（全コース） 新体力テスト（握力・長座体前屈・立ち幅跳び・上体起こし・反復横飛び）	授業の進め方や評価方法を確認する。 新体力テストの測定を行い、自身の体力を把握する。
		2週	新体力テスト（50m走・ハンドボール投げ・20mシャトルラン）	新体力テストの測定を行い、自身の体力を把握する。
		3週	身体の構造と機能 栄養素の種類 スポーツサイエンス・リテラシー	身体の構造と機能及び栄養学の種類について学び、スポーツ科学を活用できる能力を学ぶ。
		4週	身体の構造と機能 5大栄養素と食品	身体の構造（骨格）を学ぶ。 各栄養素の働きと多く含む食品について学ぶ。
		5週	身体の構造と機能 5大栄養素と食品	身体の構造（筋肉）を学ぶ。 各栄養素の働きと多く含む食品について学ぶ。
		6週	トレーニングと身体の反応 運動とエネルギー	トレーニングを行うことによってエネルギー代謝がどのように行われているかを理解する。
		7週	トレーニングと身体の反応 運動とエネルギー	トレーニングを行うことによってエネルギー代謝がどのように行われているかを理解する。
		8週	前期中間試験	
	2ndQ	9週	前期中間試験の解答と解説	
		10週	トレーニング理論・方法・原則 運動生理学基礎	トレーニングの方法や心拍数、乳酸値、酸素摂取量等生体情報のデータ処理について学ぶ。
		11週	トレーニング理論・方法・原則 運動生理学基礎	トレーニングの方法や心拍数、乳酸値、酸素摂取量等生体情報のデータ処理について学ぶ。
		12週	運動パフォーマンスを物理の視点で見る コンディショニングのための栄養	各種運動をキネシオロジーの観点から観察・分析する。 コンディショニングを保つための栄養について学ぶ。
		13週	器具・道具を使ったトレーニング 自己管理 スポーツと科学	器具や道具を使ったトレーニング法や運動を行う上での自己管理方法を学び、運動を分析するための機器を知る。

		14週	器具・道具を使わないトレーニング、目的別トレーニング エネルギー補給・アスリートの食事	器具や道具を使わないトレーニング法や目的に合わせたトレーニング法について学ぶ。 アスリートのエネルギー補給や食事について理解する。
		15週	前期末試験	
		16週	前期末試験の解答と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	4	
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	4	
	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学についての基礎的原理や現象を、実験を通じて理解できる。	3	
				物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	3	
				実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	3	
				実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	3	
				実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	3	
				実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3	
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3	
				集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3	
				目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3	
				ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	3	
				ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。	3	
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	3	
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	3	
				事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	3	
				複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語IVA

科目基礎情報

科目番号	0006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材	「TARGET ON THE TOEIC TEST Starter」（金星堂）「DUOセレクト：厳選英単語・熟語1600」（アイシーピー）		
担当教員	石貫 文子		

到達目標

１．実際に日常的に使われるレベルの英語を聞いてその概略を把握することができるように聴解力向上のためのトレーニング法に習熟する。
２．TOEIC受験に必要な語彙力を増強するため様々な活動に取り組み、その語彙を使用できるようになる。
３．実際に日常生活で使用されるレベルの文章を速読し、大意を把握することができる。
４．TOEICの問題演習を通じてその問題形式や解法に習熟し、TOEIC形式の問題を解くことができる。さらに、実際にTOEICを受験し、400点以上の取得を目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
【聴解力向上に関する評価】日常的に使われるレベルの英語を聞いてその概略を把握することができる。	日常的に使われるレベルの英語を聞き、その概要が十分に理解できる。	日常的に使われるレベルの英語を聞き、その概要が最低限理解できる。	日常的に使われるレベルの英語を聞いても、その概要がほぼ理解できない。
【語彙力増強に関する評価】日常的に使用されるレベルの語彙を増強し使用することが出来る	日常的に使用される語彙を十分に使用することができる。	日常的に使用される語彙を最低限使用することができる。	日常的に使用される語彙をほとんど使用することができない。
【速読速解に関する評価】日常的に使用されるレベルの英文を速読し、大意を把握することが出来る。	日常的に使用されるレベルの英文を時間をかけずに読み、大意を十分に把握することができる。	日常的に使用されるレベルの英文をある程度のスピートで読み、大意を最低限把握することができる。	日常的に使用されるレベルの英文を時間をかけても読めず、大意もほとんど把握することができない。
【解法理解に関する評価】TOEICの問題形式や解法に習熟し、TOEIC形式の問題を解くことが出来る。	TOEICの問題形式を理解し、解法にも十分習熟し、問題解答に役立てることができる。	TOEICの問題形式を理解し、解法にもある程度習熟し、問題解答に役立てることができる。	TOEICの問題形式を理解しておらず、解法にも習熟していないため、問題解答に役立てることができない。

学科の到達目標項目との関係

本科到達目標 1-2 本科到達目標 1-3 本科到達目標 4-2

教育方法等

概要	英語Ⅳ Aでは、異文化を理解するための手段としての英語力を高めることを目的としている。外国語コミュニケーションの指標となるTOEICに関する授業を中心として、英語の様々な分野の学習を目的とした授業で構成されている。
授業の進め方・方法	前期中間試験までは、TOEIC受験を視野に入れた英語トレーニングを行う。その際、基本的な文法事項の復習や語彙増強のための活動を随時取り入れる。その後はそれに加えて、英語プレゼンテーションの基礎を修得することを目的とした活動もクラス単位で行う。
注意点	評価方法及び総合評価：　＊目標項目は基本的に定期試験と小テストで確認し、授業中の活動（プレゼンテーション実践など）や提出課題（ディクテーションシートなど）によっても確認する。＊最終成績は定期試験を80%、課題と小テスト、及び言語活動の評価を20%として産出する。授業進度や学生の習熟度により算出割合を変更することがある。60点以上を合格とする。成績は、前期中間試験と前期期末試験を総合して算出する。なお、教員が必要と認めた時、再試験を実施する場合がある。 学習方法：それぞれの授業で、毎回教科書や副教材等から予習、復習箇所とその取り組み方を指示する。授業内容を有意義にするためにも十分な予習、復習を行った上で授業に臨むことが求められる。特にTOEICの得点アップのために、授業以外での語彙力増強やリスニング力向上、また学習事項定着のために、地道な自学を求める。　学生へのメッセージ：・国際社会では、英語で読み書きができるだけでは通用しません。授業での音を介した言語活動に積極的に取り組み、運用能力の基盤を作ってください。 ・講義への質問や要望はメールでも受け付けるので随時活用すること。来室の場合は、授業や会議のスケジュールを掲示しているので、確認すること。・英語が苦手？勉強の仕方がわからない？大丈夫です！いつからでもやり直せるのが語学学習です。学習法についても、ぜひ質問してください。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス、TARGET ON THE TOEIC TEST Starter Unit 1 Daily Life	生活関連の英語表現を理解し基本的な英語表現ができるようにする。品詞の違いを認識できる。
		2週	TARGET ON THE TOEIC TEST Starter Unit 1 Daily Life	生活関連の英語表現を理解し基本的な英語表現ができるようにする。品詞の違いを認識できる。
		3週	TARGET ON THE TOEIC TEST Starter Unit 2 Shopping	買い物での英語表現を理解し基本的な英語表現ができるようにする。接尾辞・接頭辞を認識できる。
		4週	TARGET ON THE TOEIC TEST Starter Unit 2 Shopping	買い物での英語表現を理解し基本的な英語表現ができるようにする。接尾辞・接頭辞を認識できる。
		5週	TARGET ON THE TOEIC TEST Starter Unit 3 Restaurant	レストランでの英語表現を理解し基本的な英語表現ができるようにする。数量の表し方について理解を高める。
		6週	TARGET ON THE TOEIC TEST Starter Unit 3 Restaurant	レストランでの英語表現を理解し基本的な英語表現ができるようにする。数量の表し方について理解を高める。
		7週	TARGET ON THE TOEIC TEST Starter Unit 4 Travel	旅行での英語表現を理解し基本的な英語表現ができるようにする。主語と動詞の一致ができる。
		8週	TARGET ON THE TOEIC TEST Starter Unit 4 Travel	旅行での英語表現を理解し基本的な英語表現ができるようにする。主語と動詞の一致ができる。
	2ndQ	9週	前期中間試験	
		10週	前期中間試験返却および解説、TARGET ON THE TOEIC TEST Starter Unit 5 People and Professions	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。また、様々な職種の英語表現を理解し基本的な英語表現ができるようにする。時制・活用形を適切に使用できる。

		11週	TARGET ON THE TOEIC TEST Starter Unit 5 People and Professions	様々な職種の英語表現を理解し基本的な英語表現ができるようにする。時制・活用形を適切に使用できる。
		12週	TARGET ON THE TOEIC TEST Starter Unit 6 Office	会社での英語表現を理解し基本的な英語表現ができるようにする。自動詞・他動詞を認識できる。
		13週	TARGET ON THE TOEIC TEST Starter Unit 6 Office	会社での英語表現を理解し基本的な英語表現ができるようにする。自動詞・他動詞を認識できる。
		14週	TED Presentation を使った演習	演習を通して、英語プレゼンテーションについて理解を深める。
		15週	前期定期試験	
		16週	答案返却と解答解説	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
				英語の発音記号を見て、発音できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	3	前10,前11,前12,前13,前14
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14

			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前10,前11,前12,前13,前14
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前10,前11,前12,前13,前14
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前10,前11,前12,前13,前14
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	3	前10,前11,前12,前13,前14
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	前10,前11,前12,前13,前14
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3	前10,前11,前12,前13,前14
				集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3	前10,前11,前12,前13,前14
				ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。	3	前10,前11,前12,前13,前14
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	3	前10,前11,前12,前13,前14
				事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開できる。	3	前10,前11,前12,前13,前14

評価割合

	試験	小テストや課題への取り組み	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語IVB

科目基礎情報

科目番号	0007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	1
教科書/教材	『English with Hit Songs：ポップスで学ぶ総合英語』（成美堂）、『DUOセレクト：厳選英単語・熟語1600』（アイシーピー）		
担当教員	藤山 和久		

到達目標

1. 既習の文法事項や英文構造について再度確認し、それを用いて自分の意思を英語で表現することができる。
2. ある程度まとまった英文を聞き（読み）、英文の特性に応じた聞き方で（読み方で）、必要な情報を得ることができる。
3. 内容を理解した英文について、発音に留意しながら口頭で表現し、その内容を要約したり言い換えたりすることができる。
4. 将来エンジニアとして必要な英語力を養うための自学自習の習慣を確立し、TOEIC400点以上を目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
【文法・構文に関する評価】	既習の文法事項や英文構造を用いて、自分の意思を適切に英語で表現することができる。	既習の文法事項や英文構造を用いて、自分の意思を英語で表現することができる。	既習の文法事項や英文構造について、その用法を理解することができない。
【聞くこと・読むことに関する評価】	ある程度まとまった英文を聞き（読み）、英文の特性に応じた聞き方で（読み方で）、必要な情報を的確に得ることができる。	ある程度まとまった英文を聞き（読み）、必要な情報を得ることができる。	英文を聞いても（読んでも）、必要な情報を得ることができない。
【話すこと・書くことに関する評価】	内容を理解した英文について、聞き手に伝わるように、適切な発音やリズム、イントネーションに留意しながら口頭で表現することができる。また、その内容を読み手に分かりやすく要約したり言い換えたりすることができる。	内容を理解した英文について、発音に留意しながら口頭で表現し、その内容を要約したり言い換えたりすることができる。	まとまりのある英文について、発音に留意しながら口頭で表現することができない。また、その内容を要約したり言い換えたりすることができない。
【学習習慣の確立に関する評価】	TOEIC400点以上を目標とした自学自習の習慣を確立し、エンジニアとして必要な英語力を養う。	TOEIC350点以上を目標とした自学自習の習慣を確立し、エンジニアとして必要な英語力を養う。	TOEIC受験のための自学自習の習慣が確立されていない。

学科の到達目標項目との関係

本科到達目標 1-2 本科到達目標 1-3 本科到達目標 4-2

教育方法等

概要	英語Ⅳでは、異文化を理解するための手段としての英語力を高めることを目的としている。英語コミュニケーションの指標となるTOEICに関する授業のほか、英語の様々な分野の学習を目的とした授業で構成されている。
授業の進め方・方法	本授業では、洋楽ヒットソングを活用したリスニング活動に加えて、関連する英文の読解や自己表現（スピーチや英作文）など4技能を意識した言語活動を行う。また随時、重要な語句や構文の小テストを実施する。語彙力増強やリスニング力向上を図ることによって、TOEICの得点アップも目指し、最終的に自発的な英語学習の確立を目指す。
注意点	・授業には必ず予習・復習をして臨むこと。予習・復習の具体的な取り組み方については授業において提示する。 ・TOEICの得点アップのためにも、授業以外での語彙力増強やリスニング力向上など学習事項定着に向けた地道な「自学自習」を強く求める。 ・映画や音楽、インターネットなど身の回りには、たくさんの英語が溢れています。興味・関心に応じて、楽しみながら英語学習に取り組もう。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンスおよび学習方法の説明	
		2週	Unit 1: My heart will go on	重点学習項目である「音の連結」「現在完了」及び教科書本文・例題の学習を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		3週	Unit 2: Open arms	重点学習項目である「音の脱落」「分詞」及び教科書本文・例題の学習を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		4週	Unit 3: Life	重点学習項目である「注意すべき母音」「品詞」及び教科書本文・例題の学習を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		5週	Unit 4: Don't look back in anger	重点学習項目である「音の同化」「知覚動詞の用法」及び教科書本文・例題の学習を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		6週	Unit 5: A whole new world	重点学習項目である「音の脱落」「関係副詞」及び教科書本文・例題の学習を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		7週	Unit 6: I don't want to miss a thing	重点学習項目である「音声変化の複合」「助動詞」及び教科書本文・例題の学習を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		8週	〔後期中間試験〕 後期中間試験の返却と解説	

	4thQ	9週	Unit 8: The stranger	重点学習項目である「音の弱化」「関係代名詞」及び教科書本文・例題の学習を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		10週	Unit 9: Hey now	重点学習項目である「音の連結」「不定詞」及び教科書本文・例題の学習を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		11週	Unit 10: Every time I close my eyes	重点学習項目である「音の脱落」「接続詞」及び教科書本文・例題の学習を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		12週	Unit 11: Kiss of life	重点学習項目である「短縮形の聞き取り」「助動詞の完了形」及び教科書本文・例題の学習を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		13週	Unit 12: All I want for Christmas is you	重点学習項目である「紛らわしい単語の聞き分け」「５文型」及び教科書本文・例題の学習を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		14週	Unit 13: Livin'la vida loca	重点学習項目である「音の脱落」「使役動詞」及び教科書本文・例題の学習を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		15週	〔学年末試験〕	
		16週	学年末試験の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				英語の発音記号を見て、発音できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	3	後9,後10,後11,後12,後13,後14
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	後9,後10,後11,後12,後13,後14
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	後9,後10,後11,後12,後13,後14
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	後9,後10,後11,後12,後13,後14

				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	後9,後10,後11,後12,後13,後14
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	後9,後10,後11,後12,後13,後14
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	後9,後10,後11,後12,後13,後14

評価割合

	試験	小テスト・提出課題・授業中の言語活動等	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本現代文学

科目基礎情報

科目番号	0071	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	適宜資料を配布する		
担当教員	池田 翼		

到達目標

①各時期の日本文学作品について、新旧仮名遣い問わず正確に音読することができる。
②各時期の日本文学作品について、同時代的状況を踏まえて読みとくことができる。
③各時期の日本文学作品について、作家論的背景を踏まえた上で自分なりの「読み」を展開できる。
④③までで準備された自分なりの「読み」を考察として論述できる。
⑤課題に対して、主体的に取り組むことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
①各時期の日本文学作品について、新旧仮名遣い問わず正確に音読することができる。	戦前～平成期までの日本文学作品において、新旧仮名遣い問わず正確に音読することができる。	戦前～平成期までの日本文学作品において、新仮名遣いであれば正確に音読することができる。	戦前～平成期までの日本文学作品において、新仮名遣いであっても正確に音読することができない。
②各時期の日本文学作品について、同時代的状況を踏まえて読みとくことができる。	戦前～平成期までの日本文学作品において、同時代状況を踏まえた解釈を論理的に説明できる。	戦前～平成期までの日本文学作品において、同時代状況を踏まえた解釈を説明できる。	戦前～平成期までの日本文学作品において、同時代状況を踏まえた解釈を説明できない。
③各時期の日本文学作品について、作家論的背景を踏まえた上で自分なりの「読み」を展開できる。	戦前～平成期までの日本文学作品において、作家論的背景を踏まえた解釈を論理的に説明できる。	戦前～平成期までの日本文学作品において、作家論的背景を踏まえた解釈を説明できる。	戦前～平成期までの日本文学作品において、作家論的背景を踏まえた解釈を説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	日本現代文学を中心にした作品の読解を通して、文学作品の基本的な「読み」の方法を身に着ける。 また、多様な作品の鑑賞を通して、文学的思考の涵養や人間の多様性への理解を目指す。
授業の進め方・方法	上記教科書および適宜配布するプリントを用いて、近代から現代にいたるまでの日本文学作品を取り上げ、作家論的背景・同時代的状況を加味しながら読解を試み、作品への理解を深める。講義終了時には、課題を出す。本科目は学修単位であるため、課題の提出状況が８０％に満たない場合は単位修得を認めない。 各授業で取り上げた作品について、授業後論点を整理しておくこと。 また、他の学生による自分の視点とは違った「読み」について、その「読み」に至った過程を考察し、次回からの自分の「読み」の多層化に向けて吸収すること。
注意点	授業への質問や要望は、メール・来室問わず随時受け付けます。 作品を読解するにあたっては、あなた独自の「読み」を展開できるように取り組んでください。独自の「読み」とは、作家論的背景や同時代的状況を抑えつつも、既存の読解・固定観念にとらわれることなく、あなた自身の感性で作品に向き合うことで生まれてきます。毎時の課題にて、皆さんの多様な「読み」が展開されることを期待しています。伸びやかな感性・柔軟な思考で授業に取り組んでください。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	文学とは何か	文学の定義について、様々な資料を読み解きながら考え、自分なりに考えることができる。
		2週	戦前の日本文学（１）	戦前の日本文学作品について、作品の背景を含めた概要について知る。
		3週	戦前の日本文学（２）	戦前の日本文学作品について、文学史的な知識を背景に、自分なりに読み解き解釈することができる。
		4週	戦前の日本文学（３）	戦前の日本文学作品について、自分なりの解釈を表現することができる。また、他の受講者の解釈を評価することができる。
		5週	戦後～昭和期の日本文学（１）	戦後～昭和期の日本文学作品について、作品の背景を含めた概要について知る。
		6週	戦後～昭和期の日本文学（２）	戦後～昭和期の日本文学作品について、文学史的な知識を背景に、自分なりに読み解き解釈することができる。
		7週	戦後～昭和期の日本文学（３）	戦後～昭和期の日本文学作品について、自分なりの解釈を表現することができる。また、他の受講者の解釈を評価することができる。
		8週	〔中間試験〕	戦前～昭和期の日本文学作品について、基礎的な知識を有している。また、作品を読み解き、自分なりの解釈を表現できる。
	2ndQ	9週	平成期の日本文学（１）	平成期の日本文学作品について、作品の背景を含めた概要について知る。
		10週	平成期の日本文学（２）	平成期の日本文学作品について、文学史的な知識を背景に、自分なりに読み解き解釈することができる。
		11週	平成期の日本文学（３）	平成期の日本文学作品について、自分なりの解釈を表現することができる。また、他の受講者の解釈を評価することができる。
		12週	ゼロ年代以降の日本文学（１）	ゼロ年代以降の日本文学作品について、作品の背景を含めた概要について知る。
		13週	ゼロ年代以降の日本文学（２）	ゼロ年代以降の日本文学作品について、文学史的な知識を背景に、自分なりに読み解き解釈することができる。

		14週	ゼロ年代以降の日本文学（３）	ゼロ年代以降の日本文学作品について、自分なりの解釈を表現することができる。また、他の受講者の解釈を評価することができる。
		15週	日本現代文学まとめ	講義全体で学んだことを、系統的に理解する。また、様々な作品を関連づけてテーマを設定し、自分なりの考えを表現できる。
		16週	〔前期末試験〕	平成期～ゼロ年代以降の日本文学作品について、基礎的な知識を有している。また、作品を読み解き、自分なりの解釈を表現できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3	前3,前6,前8,前10,前13,前15,前16
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	3	前2,前5,前8,前9,前12,前15,前16
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3	前3,前4,前6,前7,前8,前10,前11,前13,前14,前15,前16
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3	前1,前2,前3,前5,前6,前8,前9,前10,前12,前13,前15,前16
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	前4,前7,前8,前11,前14,前15,前16
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	前4,前7,前11,前14

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	古典文学

科目基礎情報

科目番号	0072	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	配布プリント		
担当教員	道園 達也		

到達目標

1．歴史的仮名遣いの古文を音読できる。
2．参考書を活用し、古典文法の基礎を踏まえ、古文を現代語訳できる。
3．自ら課題を設定し、自分なりに考察できる。
4．提示された論点を整理し、ディスカッションできる。
5．課題に対して、主体的に取り組むことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	歴史的仮名遣いの古文を、流暢に音読できる。	歴史的仮名遣いの古文を音読できる。	歴史的仮名遣いの古文を音読できない。
評価項目2	参考書を活用し、古典文法の基礎を踏まえ、古文を分かりやすく現代語訳できる。	参考書を活用し、古典文法の基礎を踏まえ、古文を現代語訳できる。	古文を現代語訳できない。
評価項目3	自ら課題を設定し、自分なりに考察し、論理的に分かりやすく表現できる。	自ら課題を設定し、自分なりに考察できる。	自ら課題を設定し、自分なりに考察できない。
評価項目4	提示された論点を整理し、積極的にディスカッションできる。	提示された論点を整理し、ディスカッションできる。	提示された論点を整理し、ディスカッションできない。
評価項目5	課題に対して、主体的に取り組むことができる。	課題に対して、主体的に取り組むことができる（8割以上）。	課題に対して、主体的に取り組むことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	古典文学に表現された人間の知を読み解きたい。人生や社会、自然に対する思想と感性は、共通性と差異によって〈いま・ここ〉に生きる私たちの姿を照らし出してくれる。 様々な古典文学を読むことで、その一端に触れたい。
授業の進め方・方法	『土左日記』を精読する。学生は本文と現代語訳、および課題設定と考察の資料を作成、口頭発表を行う。また、その他の学生は事前に該当箇所を通読し、発表者の評価と同時に、発表後の質疑応答をおこなう。以上の作業によって学習単位への対応とする。古文への抵抗感をやわらげ、その世界が身近に感じられるように配慮したい。
注意点	全受講生は、次時の範囲を読むこと。 全受講生はテーマについて質疑応答をおこなう。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	授業の進め方	授業の概要を理解する。
		2週	和歌と物語（1）	和歌と物語の関係について考察する。
		3週	和歌と物語（2）	同上
		4週	和歌と物語（3）	同上
		5週	和歌と物語（4）	同上
		6週	和歌と物語（5）	同上
		7週	和歌と物語（6）	同上
		8週	前期中間試験	説話、および歌と物語について自らの考察を記述できる。
	2ndQ	9週	和歌集（1）	和歌集について考察する。
		10週	和歌集（2）	同上
		11週	和歌集（3）	同上
		12週	和歌集（4）	同上
		13週	和歌集（5）	同上
		14週	和歌集（6）	同上
		15週	前期末試験	和歌集について自らの考察を記述できる。
		16週	前期末試験の返却と解説	説話、歌と物語、和歌集について学んだことを再確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	3	前2,前8,前15,前16
				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14

				代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	前1,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14

評価割合

	試験	討論					合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	経済学

科目基礎情報

科目番号	0073	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	必要に応じて内容に関連する資料を配布する。		
担当教員	時松 雅史		

到達目標

本講義では古典派経済学からマルクス経済学、さらにはケインズ経済学の基本的な理論を理解することを目標とする。また株式や先物取引の仕組みについて理解し、簡単な金利計算ができることを目標とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 経済学の分類と古典派経済学、マルクス経済学について	スミスからフリードマンまで経済学の変遷を理論や著者名を挙げながら説明できる。またマルクスの商品・貨幣・資本の理論について論理的に説明できる。	スミスからフリードマンまで経済学の変遷の概略を端的に説明できる。またマルクスの商品・貨幣・資本の理論について端的に説明できる。	スミスからフリードマンまで経済学の変遷の概略を端的に説明できない。またマルクスの商品・貨幣・資本の理論について端的に説明できない。
評価項目2 マルクス経済学とケインズ経済学	マルクスの生産論について論理的に数式を用いて説明できる。ケインズの有効需要の理論について説明できる。	マルクスの生産論について端的に説明できる。ケインズの有効需要の理論について端的に説明できる。	マルクスの生産論について端的に説明できない。ケインズの有効需要の理論について端的に説明できない。
評価項目3 株式、先物取引、金利計算について	株式会社と株式について基礎的用語を用いて説明できる。先物取引の成立と仕組みについて説明できる。金利計算は複利計算とローン計算ができる。	株式について基礎的用語を用いて説明できる。先物取引の仕組みについて説明できる。金利計算は複利計算とローン計算ができる。	株式について基礎的用語を用いて説明できる。先物取引の仕組みについて説明できない。金利計算は複利計算とローン計算ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	アダムスミスかやリカードをはじめとする古典派経済学の理論からマルクス経済学やケインズ経済学等を学習する。さらに株式市場や先物取引の仕組みを学び、金利計算もおこなう。
授業の進め方・方法	授業中に配布するプリントをもとに講義する。講義終了時には毎回課題を提出して、学生は家庭で自学自習を行う。また授業の終わりごろに学生からの質問・意見の時間も設定する。
注意点	授業ごとに課す課題は必ず提出すること。本科目は学修単位であるため、8割以上の課題を提出しない場合は単位認定を行わない。また課題の点を加えた総合評価の点数が60点を満たない場合には再評価の試験を行うことがある。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス・経済学の分類	経済学を大きく分類して説明できる。
		2週	古典派の理論１	アダムスミスの理論を理解できる。
		3週	古典派の理論２	リカードの理論を理解できる。
		4週	限界学派について	限界効用の理論について理解できる。
		5週	マルクスの理論１	商品とは何かについて説明できる。
		6週	マルクスの理論２	価値形態論から貨幣の必然性について理解できる。
		7週	マルクスの理論３	資本の価値増殖について理解できる。
		8週	中間試験	到達目標の達成度を確認する。
	2ndQ	9週	株式市場と現代経済１	株式の基本的な知識を獲得する。
		10週	株式会社と現代社会２	株式売買のシミュレーションにより株価の動向について検証する。
		11週	ケインズの理論１	有効需要の原理について理解できる。
		12週	ケインズの理論２	乗数理論について理解できる。
		13週	新古典派の理論	自然失業率について理解できる。
		14週	先物市場と現代社会	先物取引の成立と仕組みについての知識を獲得する。
		15週	金利計算	複利計算とローン計算を計算できる。
		16週	定期試験の解説	定期試験の問題を再確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	3	
			公民	資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前11,前12,前13
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	前1,前9,前10,前14,前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100

基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	哲学

科目基礎情報

科目番号	0074	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	特に指定しない。講義資料を配布する。/参考資料は適宜紹介する。		
担当教員	小林 幸人		

到達目標

１．哲学的思考方法を理解し，具体的問題に対して適用できる。
２．認識論について，さまざまな考え方を理解し，説明できる。
３．科学技術と社会，環境の関係について，さまざまな考え方を理解し，説明できる。
４．自分の問題意識に基づき考察し，主張を提示することができる。
５．課題に対して主体的に取り組むことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
１．哲学的思考方法を理解し，具体的問題に対して適用できる。	授業で取り上げた哲学思想について，自分の視点からとらえた具体例に適用し，説明することができる。	授業で取り上げた哲学思想について，具体例に適用し，説明することができる。	授業で取り上げた哲学思想について，具体例に適用することができない。
２．認識論について，さまざまな考え方を理解し，説明できる。	認識の真理性に関する議論について理解した内容を文章でわかりやすく説明することができる。	授業で取り上げた内容について，用語・概念を正しく用いて文章にすることができる。	授業で取り上げた内容について，文章で説明することができない。
３．科学技術と社会，環境の関係について，さまざまな考え方を理解し，説明できる。	科学技術の与える影響，社会との相互作用について理解した内容を文章でわかりやすく説明することができる。	授業で取り上げた内容について，用語・概念を正しく用いて文章にすることができる。	授業で取り上げた内容について，文章で説明することができない。
４．自分の問題意識に基づき考察し，主張を提示することができる。	独自の問題関心から考察・主張を提示することができる。小論文の作成技法を身に着け，主張を説得的に提示できる。	自分の視点から考察した内容について，文章でわかりやすく提示することができる。	自分の視点から問題を考察し，文章で提示することができない。
５．課題に対して主体的に取り組むことができる。	自習課題について，自分の視点から考察することができる。 自習課題をすべて提出する。	自習課題について80%以上提出する。	自習課題提出状況が80%未満。 ※　不合格となる。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	哲学的な思考方法を理解し，論理的に考察し，説明するためのスキル向上を図る。 今年度取り上げるテーマは，認識論および科学技術論である。
授業の進め方・方法	講義中心で行うが，事例に即し，あるいは提示されたテーマに関して受講者に考察，表現させることもおこなう。また，思考訓練を兼ね，アクティビティを実施することもあるため，積極的に授業に参加してほしい。
注意点	授業で説明されたことを聴いて理解できたと思うだけでなく，理解した内容を具体的に用いることができるよう，自習課題等に取り組むこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス：問題提起　認識論のアポリア	近代哲学の認識論上の問題について理解し、説明できる。
		2週	近代的世界観と自然科学的認識論	近代的世界観の特徴と自然科学的態度との関係について説明できる。
		3週	主観-客観構造と認識論上の問題	認識論の問題の背景となる主観-客観構造について理解し、説明できる。
		4週	カントの認識論：哲学的認識論（１）	カントの認識論（純粋理性批判）の概要について理解し、近代認識論をどのように乗り越えようとしているのか説明できる
		5週	フッサールの認識論：哲学的認識論（２）	フッサールの認識論の概要について理解し、説明できる。
		6週	認識の言語論的構成	言語論（ソシュールなど）の基本について理解し、認識とのかかわりについて説明できる。
		7週	社会構成主義	社会構成主義の概要について理解し、特にリスク問題と関連させながら説明できる。
		8週	〔中間試験〕	前半の学習内容について理解度を確認する。
	2ndQ	9週	科学・技術と社会との関係（１）	現代社会における科学・技術の問題を考察する背景や意味について理解し、説明できる。
		10週	ハイデガーのテクノロジー論（１）	近代テクノロジーに対する否定的見解について理解し、説明できる。
		11週	ハイデガーのテクノロジー論（２）	ハイデガーのテクノロジー論に基づき、現代社会の種々の問題について検討し、自分の考えを述べる。
		12週	テクノロジーの影響：政治・経済活動への影響	テクノクラシーなど、テクノロジーの発達が政治、経済分野にどのような影響を及ぼしたのかを理解し、説明できる。
		13週	近代合理主義の影響：システムと生活世界	近代科学の根底にある合理主義について、J.ハーバーマスの議論の概要を理解し、説明することができる。
		14週	科学・技術と人類の福祉	日本学術者会議などの見解を手掛かりに、科学・技術のあるべき方向とその可能性について検討する。

		15週	科学・技術と現代社会	後半の授業内容を振り返り、科学・技術と現代社会との関係について考察し、自分の考えを述べる（小論文演習）
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	3	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	3	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	3	
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	3	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	８０	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	２０	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	健康科学

科目基礎情報

科目番号	0075	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	必要に応じ資料を配布または掲示するが、ニュースや新聞、インターネット及びテレビ放映を活用し、自学自習すること。		
担当教員	四宮 一郎,川尾 勇達		

到達目標

１．自分の体力を把握することができる。
２．スポーツが人に与える効果について理解することができる。
３．日常生活における身体活動水準が理解できる。
４．各年代が抱える健康問題が理解できる。
５．健康と運動の関係を理解し、説明することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
講義	生涯にわたり健康な生活を送るための知識を身につけ、健康を害する行動や環境への対処方法を理解し、総合的な考察を説明（記述）することができる。	生涯にわたり健康な生活を送るための知識を身につけ、健康を害する行動や環境への対処方法を理解し、試験で答えることができる。	生涯にわたり健康な生活を送るための知識や、健康を害する行動や環境への対処方法を理解したり、試験で答たりすることができない。
実技	基本的な技術を身につけ、ルールを覚え他者と協力し、積極的に練習や試合を運営することができる。 経験者は、チームやクラスメイトに技能向上に関する適切な指導を行い、被指導者の技能を向上させることができる。	基本的な技術を身につけ、ルールを覚え他者と協力し、練習や試合に参加できる。 経験者はチームやクラスメイトに技能向上に関する指導をすることができる。	基本的な技術やルールを身につけたり、ルールを覚えたりすることが殆どできず、練習や試合に対して消極的な態度で参加している。 経験者でありながら、チームメイトやクラスメイトに技能向上に関する指導や競技、ゲーム運営及び補助を行わない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	生涯にわたり健康な生活を送るためには、運動は欠かせないものである。生活習慣病が社会問題となっている今日、運動を日常生活の一部として行っている人も少なくない。そこで健康科学では、生涯スポーツの見地から、健康に関する知識を土台とし、年齢に応じたスポーツやゲームを取り入れ、余暇の善用と運動の必要性を学び、日常生活に役立てるようにする。
授業の進め方・方法	授業は講義と実技からなり、授業前半を講義、後半を実技とする。 講義については、本授業で身につけた知識を高専時代に留まらせず、将来の生活における健康や安全に活用する態度を養う。 実技については、安全を第一に効率よく技術を身につけ、運動・スポーツの楽しさを味わい、ルールやマナー、指導法についても理解する。
注意点	授業中に配布した資料を読み、よく理解しておくこと。また、授業で取り扱ったスポーツに関する資料を図書館やインターネットを利用し、収集しておくこと。 授業を安全に展開するために、指定した品位ある身なりと態度・マナーで受講すること。 授業内容や健康づくり、体力づくり及びスポーツ関係の質問、相談については、昼休みと放課後に教員室及び第一体育館教員控室にて受ける。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション（全体） グループごとのオリエンテーション	授業の進め方や評価方法を確認する。
		2週	ＱＯＬ（生活の質）と運動について学ぶ。 体組成の測定	ＱＯＬについて理解する。自身の体組成を測定し現状を把握する。
		3週	現代の健康問題（生活習慣病）	生活習慣病についてまなび、現代の健康問題について理解する。
		4週	健康ブームの背景	健康ブームがおこった背景を理解する。
		5週	形態の意味	形態を表すものは何かを学ぶ。
		6週	脂肪蓄積のメカニズム	脂肪蓄積のメカニズムを理解し、その影響について学ぶ。
		7週	健康と運動 適切な栄養・食事摂取 体組成の測定	健康と運動の関わりについて理解する。 適切な食事とは何か、理想的な食事の摂取について理解する。 体組成を測定し現状を把握する。
		8週	前期中間試験	
	2ndQ	9週	前期中間試験の返却と解説	
		10週	健康と運動 適切な栄養・食事摂取	健康と運動の関わりについて理解し、摂取エネルギー量と消費エネルギー量の計算法を学び自身の現状を把握する。
		11週	健康と運動 ストレス論	健康と運動の関わりについて理解する。 ストレスが人に与える影響とその解消法について学ぶ。
		12週	健康と運動 嗜好と依存症	健康と運動の関わりについて理解する。 嗜好と依存症の違いについて理解する。
		13週	適切な運動のための運動強度設定方法 体組成の自己測定	適切な運動強度設定の方法を学ぶ。 体組成を測定し現状を把握する。

		14週	生活習慣病と運動・食事 体組成の自己測定	生活習慣病を予防するには、適切な運動と食事が重要であることを理解する。 体組成を測定し現状を把握する。
		15週	前期末試験	
		16週	前期末試験の返却と解説	
後期	3rdQ	1週	新体力テスト	新体力テストの測定を行い、自身の体力を把握する。
		2週	運動とエネルギー 体組成の自己測定	運動をするためのエネルギー獲得機構について理解する。 体組成を測定し現状を把握する。
		3週	生活習慣病と運動・食事 酸素摂取量の仕組み	酸素摂取がどのように行われているのかを理解する。
		4週	有酸素運動がもたらす効果	適切な有酸素運動が人にもたらす効果を理解する。
		5週	運動量の計算 （カロリーとメッツ） 適切な有酸素運動	運動量の計算方法を学ぶ。 それぞれに合った有酸素運動の方法を知る。
		6週	運動量の計算 （カロリーとメッツ） 基礎代謝の計算	エネルギー消費量の計算方法を学ぶ。 基礎代謝の計算方法を学ぶ
		7週	栄養素と食事とカロリー 体組成の自己測定	食事に含まれる栄養素の量とエネルギー（カロリー）について理解する。 体組成を測定し現状を把握する。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	後期中間試験の返却と解説	
		10週	栄養・身体活動量	エネルギーバランスから、適切なエネルギー摂取と消費および体組成との関わりについて理解する。
		11週	飲酒と健康	飲酒と健康の関わりについて理解する。
		12週	喫煙と健康	喫煙と健康のかかわりについて理解する。
		13週	喫煙と健康	喫煙と健康のかかわりについて理解する。
		14週	疾病（感染症とその予防） 体組成の自己測定	感染とその予防法について学ぶ。 体組成を測定し現状を把握する。
		15週	学年末試験	
		16週	学年末試験の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3	
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3	
				集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3	
				目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3	
				ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	3	
				ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。	3	
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	3	
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	3	
				事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	3	
				複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	3	
				集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	3	
				日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	3	
				ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	3	
				学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	3	
				市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	3	
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3	

				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3	
				先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめことができる。	3	
				目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	3	
				法令を理解し遵守する。基本的人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	3	
				法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	3	
				未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会の在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	3	
				技術の発展と持続的社会の在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	10	0	0	100
基礎的能力	90	0	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合英語A

科目基礎情報

科目番号	0076	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材	Hollywood English （朝日出版社）、DUO Select (アイシーピー)		
担当教員	岩下 いずみ		

到達目標

1. TOEICのスコアアップ、研究活動、就職後の仕事に必要な語彙力を身につける。
2. 英文を聞き（あるいは読み）、その英文の特性に応じた聞き方で（あるいは読み方で）、情報や考えを理解することができる。
3. 内容を理解した英文について、発音、リズム、イントネーションに留意しながら表現し、その内容を別の英語の表現を用いて伝えることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
【語彙に関する評価】研究活動や就職後の仕事に必要な語彙力を身につける。	研究活動や就職後の仕事に必要な十分な語彙を習得できる。	研究活動や就職後の仕事に必要な最低限の語彙を習得できる。	研究活動や就職後の仕事に必要な最低限の語彙を習得できない。
【聞くこと・読むことに関する評価】英文を聞き（あるいは読み）、その英文の特性に応じた聞き方で（あるいは読み方で）、情報や考えを理解することができる。	英文を聞き（あるいは読み）、その英文の特性に応じた聞き方で（あるいは読み方で）、情報や考えを的確に理解することができる。	英文を聞き（あるいは読み）、その英文の特性に応じた聞き方で（あるいは読み方で）、情報や考えの大意を理解することができる。	英文を聞いても、あるいは読んでも、大意をとらえることができない。
【話すこと・書くことに関する評価】内容を理解した英文について、発音、リズム、イントネーションに留意しながら表現し、その内容を別の英語の表現を用いて伝えることができる。	英文を聞き（あるいは読み）、その英文の特性に応じた聞き方で（あるいは読み方で）、情報や考え内容を理解した英文について、適切な発音・リズム・イントネーションで表現し、その内容を別の英語の表現を用いて的確に伝えることができる。	内容を理解した英文について、発音・リズム・イントネーションに留意しながら表現し、その内容を別の英語の表現を用いて伝えることができる。	内容を理解した英文について、発音・リズム・イントネーションを意識した読みができない。また、その内容を別の英語の表現を用いて伝えることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	総合英語は、これまで修得してきた言語知識・言語能力を、科学技術分野での研究や就職後の仕事へ活かし、異文化理解に役立てていくための科目である。より専門的で高度な英語の知識と運用能力の修得をサポートする。様々な分野における英語に触れるとともに、国際的コミュニケーションの基礎力を伸長していくことをねらいとする。
授業の進め方・方法	授業は、適宜教科書、プリント、音声、映像を用いた講義形式で進めていくとともに、4技能を実践的な運用能力へ発展させるために、様々な口頭練習等のトレーニングを行う。随時、語彙の小テストを実施する。また進度に応じて、今までの英語学習で培った知識を用いながら、相手に理解してもらえるようなスピーチやプレゼンテーションのトレーニングも行う。
注意点	国際社会では、英語の読み書きができるだけでは通用しません。授業内外での音を介した言語活動に積極的に取り組み、運用能力の基盤を作ってください。 講義への質問や要望はメール等で随時受け付けるので活用してください。教員室に来室する場合は、授業や会議のスケジュールを通知するので、確認してください。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス、学習方法の説明	ガイダンスを通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を確認する。
		2週	教科書Unit 1、発音、語彙、文法・構文、表現	教科書の素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		3週	教科書Unit 2、発音、語彙、文法・構文、表現	教科書の素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		4週	教科書Unit 3、発音、語彙、文法・構文、表現	教科書の素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		5週	教科書Unit 4、発音、語彙、文法・構文、表現	教科書の素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		6週	教科書Unit 5、発音、語彙、文法・構文、表現	教科書の素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		7週	教科書Unit 6、発音、語彙、文法・構文、表現	教科書の素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		8週	教科書Unit 7、発音、語彙、文法・構文、表現	教科書の素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。既習の内容の定着度を確認し、定着できていない箇所の強化を図る。
	2ndQ	9週	前期中間試験	
		10週	前期中間試験の返却と解説、教科書Unit 8、発音、語彙、文法・構文、表現	教科書の素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。

		11週	教科書Unit 9、発音、語彙、文法・構文、表現	教科書の素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		12週	教科書Unit 10、発音、語彙、文法・構文、表現	教科書の素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		13週	教科書Unit 11、発音、語彙、文法・構文、表現	教科書の素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		14週	教科書Unit 12、発音、語彙、文法・構文、表現	教科書の素材を通じて、発音の改善、語彙力増強、文法事項・構文運用能力伸長、コミュニケーション能力向上に寄与する学習法を習得し、実践する。
		15週	前期末試験	
		16週	前期末試験の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
				英語の発音記号を見て、発音できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	3	前8,前10,前11,前12,前13,前14
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7

				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前8,前10,前11,前12,前13
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前8,前10,前11,前12,前13
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前8,前10,前11,前12,前13
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	3	前2,前3,前5,前6,前7
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	前2,前3,前5,前6,前7
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	3	前8,前10,前11,前12,前13
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	前8,前10,前11,前12,前13

評価割合

	試験	小テストや課題への取り組み	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史と文化

科目基礎情報

科目番号	0077	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材	講義レジュメと講義資料を配布する。		
担当教員	遠山 隆淑		

到達目標

21世紀の現代に生きる私たちが自明の大前提にしているデモクラシー、またそれを支える様々な政治制度や思想（権力分立、議会、政教分離、立憲主義、人権、平等、自由など）は、古代ギリシア以来の西洋史の中で見れば、実はごくごく最近生まれた新しいものです。本講義では、西洋近代の政治思想を、それらが生み出された歴史的状況をふまえ、それらの思想が語られている実際の「古典」の箇所を紹介しながら説明します。歴史という観点から政治学を学ぶことで、現代デモクラシーの自明性を取りはらってください。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
近代の西洋政治思想史の基礎的知識を獲得し、試験で適切に記述できる。	講義で示された基礎知識を十分に理解し試験で答えられる。	講義で示された基礎知識をある程度試験で説明できる。	講義で示された基礎知識について試験で答えることができない。
講義内容について、教員の口頭での説明も丁寧に聞き取りながらノートをとることができる。	講義における教員の口頭での説明を十分かつ丁寧に聞き取りノートに取ることができる。	講義における教員の口頭での説明を聞き取りノートに取っている。	講義における教員の口頭での説明を聞き取りノートに取ることができない。
講義の説明項目について意味を理解し、試験において「パラグラフ・ライティング」の方法にしたがって1000字程度の文章を作成できる。	講義の説明項目について意味を十分に理解し、「パラグラフ・ライティング」の方法に基づき1000字程度の文章で適切に記述できる。	講義の説明項目について意味を理解し、「パラグラフ・ライティング」の方法に基づき1000字程度の文章で記述できる。	講義の説明項目について意味が理解できない、または文章で意味が通じるように記述できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	1.マキアヴェッリの思想について、近代政治学の出現ならびに権力という観点から理解できる。 2.ホッブズの思想について、宗教ならびに権力と政治という観点から理解できる。 3.J・ロックの思想について、社会と政治という観点から理解できる。 4.J・J・ルソーの思想について、デモクラシーと政治という観点から理解できる。 5.アカデミック・ライティングの基本的な発想を理解し、この方法に従って短い文章を作成できる。
授業の進め方・方法	講義中心　必要に応じて講義に関連する資料配布。
注意点	・　毎回の講義をしっかりと聴き、ノートをきちんととること。ノート作りは、他人の話の要点を読みとるための最適の訓練の場となるため、絶対におろそかにしてはならない。 ・　そのノートをもとに、講義の内容を自分自身でストーリー化して、講義全体の内容を自分の言葉でかみ砕いて理解する。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	イントロダクション	・本講義の進め方について理解する。
		2週	マキアヴェッリ『君主論』と近代政治学の出現	ルネサンス人マキアヴェッリが生み出した近代政治学の特質を、権力論の観点から理解する。
		3週	マキアヴェッリ『君主論』と近代政治学の出現	ルネサンス人マキアヴェッリが生み出した近代政治学の特質を、権力論の観点から理解する。
		4週	マキアヴェッリ『君主論』と近代政治学の出現	ルネサンス人マキアヴェッリが生み出した近代政治学の特質を、権力論の観点から理解する。
		5週	T・ホッブズ『リヴァイアサン』と宗教戦争の克服	ホッブズが提出した社会契約論の特質を、政治と宗教の問題の克服という観点から理解する。
		6週	文章作成指導	「パラグラフ・リーディング」「パラグラフ・ライティング」の考え方を理解する。
		7週	T・ホッブズ『リヴァイアサン』と宗教戦争の克服	ホッブズが提出した社会契約論の特質を、政治と宗教の問題の克服という観点から理解する。
		8週	中間試験	講義内容の理解を「パラグラフ・ライディング」での答案作成で問う。
	2ndQ	9週	T・ホッブズ『リヴァイアサン』と宗教戦争の克服	ホッブズが提出した社会契約論の特質を、ピューリタン革命と政治と宗教の問題の克服という観点から理解する。
		10週	J・ロック『統治二論』と市民社会の発見	J・ロックの社会契約論の特質を、名誉革命にいたる歴史ならびに「（市民）社会の発見」という観点から理解する。
		11週	J・ロック『統治二論』と市民社会の発見	J・ロックの社会契約論の特質を、名誉革命にいたる歴史ならびに「（市民）社会の発見」という観点から理解する。
		12週	J・ロック『統治二論』と市民社会の発見	J・ロックの社会契約論の特質を、名誉革命にいたる歴史ならびに「（市民）社会の発見」という観点から理解する。
		13週	J・J・ルソー『社会契約論』と人民主権	J・J・ルソーの社会契約論を、人民主権論に注目して考察することを通じ、デモクラシーの難しさについて理解する。
		14週	J・J・ルソー『社会契約論』と人民主権	J・J・ルソーの社会契約論を、人民主権論に注目して考察することを通じ、デモクラシーの難しさについて理解する。
		15週	J・J・ルソー『社会契約論』と人民主権	J・J・ルソーの社会契約論を、人民主権論に注目して考察することを通じ、デモクラシーの難しさについて理解する。

		16週	期末試験	講義内容の理解を「パラグラフ・ライディング」での答案作成で問う。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	0	70
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合英語B

科目基礎情報

科目番号	0078	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	1
教科書/教材	『Science Matters!　暮らしを変える最新科学』（金星堂）		
担当教員	福井 由美子		

到達目標

1. 初歩的レベルの理系英語の語彙や表現を身につける。
2. 初歩的な理系英語で書かれた科学エッセイを読み、あるいは聞き、内容を理解することができる。
3. 日常会話で使われる程度の英語を用いて、自分の意志を伝えることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
1. 【語彙力】初歩的レベルの理系英語の語彙や表現を身につける。	初歩的レベルの理系英語の語彙や表現を十分に習得している。	初歩的レベルの理系英語の語彙や表現を最低限習得している。	初歩的レベルの理系英語の語彙や表現を習得していない。
2. 【読む・聞く力】 初歩的な理系英語で書かれた科学エッセイを読み、あるいは聞き、内容を理解することができる。	初歩的な理系英語で書かれた科学エッセイを読み、あるいは聞き、内容を正確に理解することができる。	初歩的な理系英語で書かれた科学エッセイを読み、あるいは聞き、内容を最低限理解することができる。	初歩的な理系英語で書かれた科学エッセイを読み、あるいは聞き、内容を理解することができない。
【書く・話す力】 日常会話で使われる程度の英語を用いて、自分の意志を伝えることができる。	日常会話で使われる程度の英語を用いて、自分の意志を正確に伝えることができる。	日常会話で使われる程度の英語を用いて、自分の意志を最低限伝えることができる。	日常会話で使われる程度の英語を用いて、自分の意志を伝えることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	総合英語は、これまで修得した言語知識・言語能力を、科学技術分野での研究や就職後の仕事へ活かし、異文化理解に役立てるための科目である。主に進学希望者を対象とし、より専門的かつ高度な英語の知識と運用能力の修得を目指す。科学技術分野の英語に触れるとともに、国際的コミュニケーションの基礎力を伸長していくことをねらいとする。
授業の進め方・方法	授業は講義形式で行う。授業の冒頭に既習事項の復習として前時の語彙や表現に関する小テストを課す。テキストについては、リスニングと音読を行った後、意味内容や語彙表現を確認し、問題演習を行う。また、口頭にて日常会話の練習も行う。
注意点	毎時指定された範囲を必ず予習して授業に臨むこと。予習に際しては、語彙などの意味調べに加え、英文を音読し、適切な発音、リズム、イントネーションで読めるように何度も練習してくること。また毎時、前時に学習した語彙表現に関する小テストを行うので、指定された箇所を復習しておくこと。 　講義への質問や要望はメールでも随時受け付けるので活用すること。来室の場合は、授業や会議のスケジュールを通知するので確認すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス Unit 1	授業の進め方や予習、復習の仕方を理解し、今後の学習計画を立てる Unit 1を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる。
		2週	Unit 1 の小テスト Unit 2	Unit 1の既習事項を確認する Unit 2を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる。
		3週	Unit 2 の小テスト Unit 3	Unit 2の既習事項を確認する Unit 3を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる。
		4週	Unit 3 の小テスト Unit 4	Unit 4の既習事項を確認する Unit 5を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる。
		5週	Unit 4 の小テスト Unit 5	Unit 4の既習事項を確認する Unit 5を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる。
		6週	Unit 5 の小テスト Unit 6	Unit 5の既習事項を確認する Unit 6を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる。
		7週	Unit 6 の小テスト Unit 7	Unit 6の既習事項を確認する Unit 7を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	後期中間試験の返却と解説 Unit 8, 9	後期中間試験の出題箇所について復習する Unit 8,9 を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる。
		10週	Unit 8, 9 の小テスト Unit 10	Unit 8, 9の既習事項を確認する Unit 10を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる。
		11週	Unit 10 の小テスト Unit 11	Unit 10の既習事項を確認する Unit 11を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる。
		12週	Unit 11 の小テスト Unit 12	Unit 11の既習事項を確認する Unit 12を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる。
		13週	Unit 12 の小テスト Unit 13	Unit 12の既習事項を確認する Unit 13を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる。

		14週	Unit 13 の小テスト、Unit 14	Unit 13の既習事項を確認する Unit 14を通じて、科学エッセイで用いられる語彙表現を習得し、速読および精読することができる
		15週	学年末試験	
		16週	学年末試験の返却と解説	学年末試験の出題箇所について復習する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	3	
				英語の発音記号を見て、発音できる。	3	
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3	
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3	
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3	
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	3	
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	2	
				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	3	
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	3	
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	

評価割合

	試験	小テストや口頭発表	相互評価	合計
総合評価割合	80	20	0	100
基礎的能力	80	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

熊本高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	社会と法

科目基礎情報

科目番号	0079	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	共通教育科（八代）	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	1
教科書/教材	特に指定しない。講義資料を配布する。		
担当教員	小林 幸人		

到達目標

１．現代法の特徴を理解する。
２．契約の基本的知識を理解する。
３．不法行為の基本的知識を理解する。
４．労働契約に係る基本的な権利・義務について理解する。
５．リスク社会における消費者保護政策，無過失責任主義などについて理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
１．現代法の特徴を理解する。	短答式問題で80%以上正解。 事例問題で，論点，関連法の知識，解釈を論理的に説明できる。	短答式問題で60%以上正解。 事例問題で，論点，関連法の知識，解釈を説明できる。	短答式問題および論述問題で理解していることを示すことができない。
２．契約の基本的知識を理解する。	短答式問題で80%以上正解。 事例問題で，論点，関連法の知識，解釈を論理的に説明できる。	短答式問題で60%以上正解。 事例問題で，論点，関連法の知識，解釈を説明できる。	短答式問題および論述問題で理解していることを示すことができない。
３．不法行為の基本的知識を理解する。	短答式問題で80%以上正解。 事例問題で，論点，関連法の知識，解釈を論理的に説明できる。	短答式問題で60%以上正解。 事例問題で，論点，関連法の知識，解釈を説明できる。	短答式問題および論述問題で理解していることを示すことができない。
４．労働契約に係る基本的な権利・義務について理解する。	短答式問題で80%以上正解。 事例問題で，論点，関連法の知識，解釈を論理的に説明できる。	短答式問題で60%以上正解。 事例問題で，論点，関連法の知識，解釈を説明できる。	短答式問題および論述問題で理解していることを示すことができない。
５．リスク社会における消費者保護政策，無過失責任主義などについて理解する。	短答式問題で80%以上正解。 事例問題で，論点，関連法の知識，解釈を論理的に説明できる。	短答式問題で60%以上正解。 事例問題で，論点，関連法の知識，解釈を説明できる。	短答式問題および論述問題で理解していることを示すことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	現代社会を秩序付ける重要なシステムとしての法に関する基本的な知識を獲得する。日常生活における法的な権利および義務について，民法を中心に取り扱う。また，近年の科学技術の発達によって生じた変化によって，法がどのように変容したのかを取り扱う。
授業の進め方・方法	講義中心に行う。条文を覚えるのではなく，具体的事例に即して，法的にどのような判断が下されるのかを学ぶため，受講者自身が事例を考察することが必要となる。
注意点	法の考え方や法律用語については知識として身につける必要があるが，それだけではなく，具体的な事例に関して，法的にどのように解釈できるのかを理解する。そのためには，説明を聴いて覚えるだけではなく，問題を考えていくことが重要である。 学修単位科目であるため，講義2時間に対して1時間の自主学習が必要となる。練習問題などを提示するので，自主学習に努めること

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	法とは何か：現代法の特質	現代法の特徴，特に私法の特徴について理解し，説明できる。
		2週	契約の原則	契約行為についての基本知識を得る。私法の基本原則について理解し，事例に応用できる。
		3週	さまざまな契約（１）	契約に関する論点（意思の不存在，意思表示の瑕疵など）について理解し，事例に即して考察できる
		4週	さまざまな契約（２）	同上
		5週	契約と物権（１）	民法上の重要な権利である物権について基本的知識を得て，事例に即して考察できる
		6週	契約と物権（１）	同上
		7週	不法行為責任（１）：一般不法行為	一般不法行為の要件について理解し，事例に即して考察できる。
		8週	〔中間試験〕	前半の学習内容についての理解を確認する。
	4thQ	9週	不法行為責任（２）：特殊不法行為	特殊不法行為の類型と論点について理解し，事例に即して考察できる
		10週	消費者保護：製造物責任と消費者保護政策の変容	製造物責任など，近年の過失責任主義からの転換や消費者保護政策の変容について理解し，事例に即して考察できる
		11週	労働契約と関連法	労働契約の基本的知識と，雇用に関わる法制度の概要について理解する
		12週	労働契約にかかわる条件（１）	労働基準法などに規定される労働条件についての基本知識を得て，事例に即して考察できる。
		13週	労働契約にかかわる条件（２）	同上
		14週	労働紛争と救済方法	労働にかかわる訴訟、紛争とその救済方法について理解し、説明できる
		15週	法的責任と倫理・道徳	法的規制の特質について理解し、倫理的、道徳的責任の意義について理解し、説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	2	後9,後10,後15
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。	2	後1,後6,後7,後9,後10,後15
				説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	後9,後10,後15
				技術者を目指す者として、社会での行動規範としての技術者倫理を理解し、問題への適切な対応力（どうのように問題を捉え、考え、行動するか）を身に付けて、課題解決のプロセスを実践できる。	3	後7,後10,後15
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後10
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	2	
				社会性、社会的責任、コンプライアンスが強く求められている時代の変化の中で、技術者として信用失墜の禁止と公益の確保が考慮することができる。	3	後7,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0